

13. なんかいでんてつたまでへんでんしよ
南海電鉄玉出変電所



◆所在地

西成区玉出東1丁目12番

◆概要

明治44年(1911年)12月に、阪堺電気軌道の変電所として竣工。

煉瓦造2階建ての建物は、赤煉瓦の外壁やアーチ型窓、建物正面のくし形ペディメント(妻壁飾り)の意匠が特徴的である。



14. つもりげすいしよりじょう
津守下水処理場



◆所在地

西成区津守2丁目7番13号

◆概要

昭和6年(1931年)から10年の歳月をかけて建設され、昭和15年(1940年)4月に通水した大阪市で最初の大型下水処理施設。

市中央部から西部にかけての雨水の排除や、家庭や工場などから排出される汚水を処理し、放流先の木津川や大阪湾の水質浄化に寄与している。

また、市民の方に親しまれる下水処理場をめざし、ヒラドツツジをシンボルツリーとして場内の緑化を進め、ツツジの開花時(4月下旬)には、津守下水処理場を一般公開している。



15. つもりじんじや
津守神社



◆所在地

西成区津守3丁目4番1号

◆概要

津守新田開発の時に勧請された。初めは五所神社、五社大明神といわれ、元禄時代には単に稲荷神社と呼ばれたが、明治4年(1871年)津守神社と改称し、同5年(1872年)村社に列した。同40年(1907年)6月新饗幣料供進社(しんせんへいはくりょうきょうしんじんじや)として指定され、同42年(1909年)例祭、祈年祭、神嘗祭(かんなめさい)には、大阪市から共進使が参向して、公の祭祀が執行された。氏子は現在津守町全般で6千戸に及んでいる。

始めは津守町の北端、剣先と称する所にあつたが、明和年間(1764~71年)に現在に移した。新田は開発以来、幾度か地震や大津波を受け、その度に堤防や田畑、住宅に莫大な損害を被り、その度に地主、農民は共に大神の守護を祈願した。

16. たいしゅうげきじょう すすな さ
大衆劇場 鈴成り座



◆所在地

西成区鶴見橋2丁目9番1号

◆概要

国道26号線側より鶴見橋商店街を歩いて約4分、左脇に入っすぐにある大衆演劇場である。ここ鈴成り座は平成13年(2001年)に改装され、館内は近代的で明るく、広々としてゆったりとお芝居を楽しめる。劇場入り口前には駐輪場があり、自転車で来場されるお客さんもいる。劇場内に休憩所が併設されており、幕間には飲食も出来る。一度観るとリピーターになるお客さんも多い。

17. こげやまりゅうおう
苔山龍王



◆所在地

西成区天下茶屋1丁目32番

◆概要

織田信長時代の土佐藩の家老夫婦がこの地で返り討ちに合い、後に豊臣、徳川の冬の陣・夏の陣の戦に天下茶屋一帯が戦場となり、多くの霊がさまよい、徳川家光の慶安3年(1650年)正月にこの碑が建てられた。

その後長い年月の間に碑が倒れ、いつの間にか溝川の橋に使われていたが、昭和4年(1929年)南海電鉄線路改修の際、その溝川が埋められた時この碑が出てきた。

当時の町名をとり苔山龍王と命名、地域の守護神として祭られている。



18. うめだにし か い いん
梅谷歯科医院



◆所在地

西成区天下茶屋3丁目16番16号

◆概要

大正11年(1922年)頃建築の歯科医院で、平成11年2月に国の登録有形文化財に登録されている。木造3階建てで道路に面して建ち、外観は1階をタイル貼り、2・3階を下見板張りとするなど洋風の意匠になる。内部は、伝統的な町家の平面を継承した形で、一部を除き和風とする。大阪の下町において洋風の意匠を積極的に取り入れた大正期建築の好例である。建築面積:98㎡、階高:3階建、構造:木造。



19. こつまかいどう たまでなかいっちょうめふきん
 勝間街道 (玉出中一丁目付近)



◆所在地
 西成区玉出中1丁目

◆概要
 江戸時代、難波より木津を通過して粉浜中在家(現在の住吉区東粉浜)で紀州街道(住吉街道)と合流していた街道。「勝間」の名称は、西成郡勝間村として大正時代まで残っていたが、現在、そのあたりは「玉出」と呼ばれている。玉出1丁目付近には、現在も通りに面して歴史のある建築物が残っており、昔の名残を偲ばせる。

20. じゅうさんげんがわ てつきょう
 もと十三間川の鉄橋



◆所在地
 西成区北津守1丁目

◆概要
 十三間川は、津守新田の開発を始めた元禄11年(1698年)に河村瑞軒(かわむらすいけん)により開削されたものと伝えられている。当初、七瀬川(津守の北端、浪速区との境を流れていた)から中在家村(住之江区粉浜)まで開削され木津川の水を受けて南へ流れていたが、宝永元年(1704年)に大和川の付け替えが行なわれて大和川まで延長されると、流れ込む土砂のたい積とともに南部の川床が上がリ、逆に北流するようになった。明治の始めごろまでは、農業用水路として利用されただけでなく、両岸に松の並木、楊柳(やなぎ)などがあり、頗る風情にとみ大坂より住吉に遊ぶものが多く、また、十三間川の名はその幅員が十三間あったからだと言われている。今はほとんどが埋め立てられ、昭和45年(1970年)2月に開通した阪神高速道路堺線の敷地となっているが、南海電車高野線の鉄橋にその名残を見ることができる。

21. たいしゅうげきじょう ばいなんざ
大衆劇場 梅南座



◆所在地

西成区梅南1丁目8番21号

◆概要

梅南座は、昔ながらの下町情緒あふれる住宅街の一角にある、平成10年(1998年)に新しく建てられた大衆演劇場である。舞台構成は「ミニショー」、「お芝居」、「歌謡・舞踏ショー」の3部構成からなる。コンパクトな劇場なので、演者とお客様の距離も近く、熱心なファンに喜ばれている。公演が終わると、毎回、一座の役者さんたちがお見送りをされるので、また足を運びたいくなる、ハートフルな劇場である。

22. はんかいせん にしなりく
阪堺線 (西成区)



◆所在地

西成区萩之茶屋1丁目～玉出東2丁目

◆概要

会社は明治42年(1909年)に設立され、同44年(1911年)に恵美須町～浜寺駅前間が開業された。しかし、同方向に鉄道事業を展開する南海鉄道と熾烈な競争が展開され、大正4年(1915年)合併し、南海阪堺線と呼ばれるようになったが、昭和55年(1980年)12月南海電鉄から独立し、新たな事業展開をおこすため新会社を設立し現在に至る。

今では、大阪市内でただ一つの路面電車であり、趣をこらした図柄が描かれた車体や親しみのあるほのぼのした沿線の表情が下町の情緒を漂わせている。



23. みなみつもり こうえん 南津守さくら公園



◆所在地

西成区南津守 1 丁目 2 番 36 号

◆概要

南津守さくら公園(スポーツ広場、テニスコート、児童公園)は、平成 12 年(2000 年)9 月 30 日に完成した。公園内のスポーツ広場は、天然芝のグラウンドと人工芝のグラウンドの 2 面である。また、それぞれのグラウンドには観覧席も設けられ、平成 24 年(2012 年)までサッカー J リーグチーム・セレッソ大阪のトップチームをはじめ、育成選手などの練習場として使用されていた。平成 25 年(2013 年)には、セレッソ大阪のトップチームは舞洲グラウンドに練習場を移し、現在はセレッソ大阪アカデミー(U-15)(U-12)の練習やプレナスチャレンジリーグ(なでしこリーグ 1 部)に参戦した「セレッソ大阪堺レディース」がホームグラウンドとして公式戦や練習場として使用している。

また、南側にはテニスコートやグラウンド、児童公園が整備されており、春には花見に利用されるなど地域のコミュニティの場として親しまれている。

24. にしなりく とせんじょう けいかん 西成区の渡船場の景観



落合上渡船



落合下渡船



千本松渡船



◆所在地

落合上渡船場:西成区北津守 4 丁目 15 番、大正区千島 1 丁目 29 番

落合下渡船場:西成区津守 2 丁目 8 番、大正区平尾 1 丁目 1 番

千本松渡船場:西成区南津守 5 丁目 6 番、大正区南恩加島 1 丁目 11 番

◆概要

市内には 8カ所の渡船場があり、その内西成区と大正区の境を流れる木津川に 3カ所の渡船場がある。1 時間に 4 回程度、運航しており、区民の生活に欠かせない貴重な交通手段となっている。

また、夕暮れ時には川べりが赤く染まり、渡船場の姿と相まってノスタルジックな雰囲気を醸し出している。

・落合上渡船場:西成区北津守 4 丁目と大正区千島 1 丁目を結ぶ(岸壁間 100m)。

・落合下渡船場:西成区津守 2 丁目と大正区平尾 1 丁目を結ぶ(岸壁間 138m)。

・千本松渡船場:西成区南津守 5 丁目と大正区南恩加島 1 丁目を結ぶ(岸壁間 230m)。

25. 千本松大橋と千本松渡船場

せんぼんまつおおはし せんぼんまつとせんじょう



◆所在地

千本松大橋: 西成区南津守 5 丁目、大正区南恩加島 1 丁目

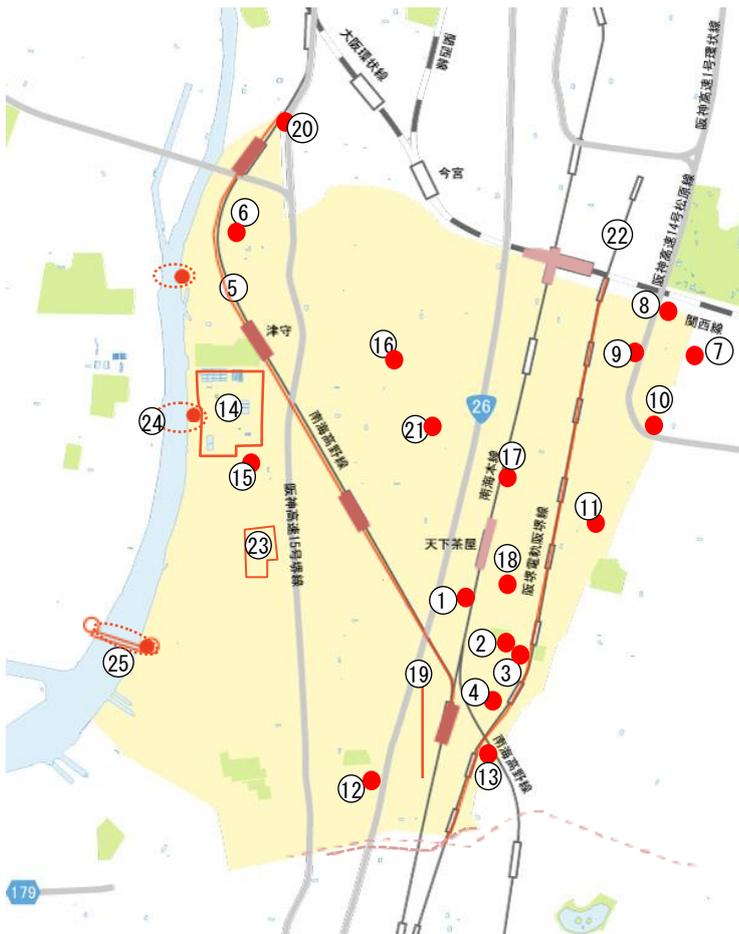
千本松渡船場: 西成区南津守 5 丁目 6 番、大正区南恩加島 1 丁目 11 番

◆概要

千本松大橋の兩岸一帯は江戸時代に開かれた新田地帯で、明治の後期ごろから工業化が進み、造船所などが建設されるようになった。大正区は、市内有数の工業地帯となっていたが、水運に恵まれている反面、陸上交通は不便で、自動車は遠く市の中心部まで迂回しなけりばならなかった。このような状態を改善するため、木津川河口を結ぶ千本松大橋が建設された。木津川を船が安全に航行できるように、桁下を水面から 33m の高さにする必要があり、兩岸の取付部は 2 段のらせん形状が採用されている。その形状から“めがね橋”の愛称で呼ばれている。全長:1228.3m 幅員:9.75m 完成:昭和 48 年(1973 年)。

千本松渡船は西成区南津守 5 丁目と大正区南恩加島(みなみおかじま)1 丁目を結ぶ(岸壁間 230m)。千本松の渡しは設けられた年代ははっきりしないが、大正時代の中頃に初めて設けられたものと思われる。現在も通勤通学の貴重な交通手段として利用されている。

西成区の都市景観資源（分布図）



- ① 大阪フィルハーモニー会館
- ② 天下茶屋公園
- ③ 安養寺
- ④ 天下茶屋跡
- ⑤ 南海電鉄高野線（西成区）
- ⑥ 久金属工業株式会社
- ⑦ 新・福寿荘
- ⑧ てんのじ村記念碑
- ⑨ 大衆劇場 オーエス劇場
- ⑩ 鯛よし百番
- ⑪ 波切不動明王
- ⑫ 生根神社
- ⑬ 南海電鉄玉出変電所
- ⑭ 津守下水処理場
- ⑮ 津守神社
- ⑯ 大衆劇場 鈴成り座
- ⑰ 苔山龍王
- ⑱ 梅谷歯科医院
- ⑲ 勝間街道（玉出中一丁目付近）
- ⑳ もと十三間川の鉄橋
- ㉑ 大衆劇場 梅南座
- ㉒ 阪堺線（西成区）
- ㉓ 南津守さくら公園
- ㉔ 西成区の渡船場の景観
- ㉕ 千本松大橋と千本松渡船場
（㉕は平成 24 年 3 月 30 日登録）

■都市景観資源とは…

地域のみなさんに親しまれ、地域の景観を特徴づけている建造物、橋梁、樹木などの資源を、大阪市都市景観条例に基づき登録するものです。広く市民の皆さんに知ってもらい、地域の景観に関心を持ってもらうことにより、地域の特性を生かした景観づくりを進めていこうとするものです。

■大阪市都市景観条例(平成 10 年大阪市条例第 50 号)

大阪市域の景観の向上及び地域の特性を生かした都市景観の形成を目的として、その実現に向けて必要な基本事項を定めた条例です。市民や事業者のみなさんに都市景観への関心をより高めていただき、魅力的な都市景観をつくっていくことをめざしています。

都市景観資源紹介 HP

<http://www.city.osaka.lg.jp/toshikeikaku/page/0000017850.html>

お問い合わせ先 大阪市都市計画局 計画部 都市計画課（都市景観）
〒530-8201 大阪市北区中之島 1-3-20（市庁舎 7 階）
電話 06（6208）7885